



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月8日

上場会社名 株式会社 アテクト 上場取引所 東  
 コード番号 4241 URL <http://www.atect.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小高 得央  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部次長 (氏名) 菅原 偉夫 (TEL) 0748-20-3400  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	759	8.5	60	5.5	46	△9.2	31	△10.6
2019年3月期第1四半期	699	6.8	57	86.1	51	174.0	34	153.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 14百万円(△52.1%) 2019年3月期第1四半期 30百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	7.11	7.05
2019年3月期第1四半期	8.03	7.91

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	5,297	1,637	30.1
2019年3月期	5,362	1,665	30.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 1,595百万円 2019年3月期 1,624百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	3,100	4.9	230	9.9	210	8.2	130	2.3	29.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	4,395,900株	2019年3月期	4,395,900株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	15,616株	2019年3月期	15,595株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	4,380,293株	2019年3月期1Q	4,340,169株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

人材不足及び人手不足が経営の最重要課題となる中、現有の経営資源である「ヒト・モノ・カネ」を最大限に活用した新たな事業ポートフォリオを作成し、衛生検査器材・半導体資材の2大コア事業に加え、PIM事業を将来的に高機能部品、自動車部品の2大事業として成長させ、4大事業からなる企業体とするべく、新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)を立案致しました。そのスタート年度となる当連結会計年度は、高機能部品(PIM事業)及び4Kテレビ対応スペーサーテープ(半導体資材事業)を安定成長事業として位置付け、3年後の売上高40億円(第1次成長ステージ)を実現すべく活動中です。当第1四半期連結累計期間における半導体資材事業の月産販売数量は、2007年に達成した過去最高の出荷量837万m(アナログから地デジ切替時の特需)に迫る勢いで伸長を続けております。PIM事業については、当第1四半期連結累計期間において新たに11品目の新規受注を獲得致しました。また、第2次成長ステージにおける次代の中核事業として見据える自動車部品事業(ターボ部品)については1年後の量産開始に向け具体的交渉に入りました。正式受注獲得後の社内体制の強化と2年前倒しでスタートする自動車部品事業立ち上げに伴う、新5ヶ年計画の再編も視野に入れ活動して参ります。

グループ連結業績については売上高前年同期比8.5%増、売上総利益前年同期比14.3%増となり、四半期単独売上総利益371百万円は上場以来、過去最高となり、売上総利益率は49.0%となりました。生産革新活動によるモノづくり力は確実に進化しております。

一方で販管費については人件費及び研究開発費の増加により、前年同期比43百万円、16.2%増となりました。

また、主に半導体資材事業における為替差損約5百万円を計上致しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高759百万円(前年同期比8.5%増)、営業利益60百万円(前年同期比5.5%増)、経常利益46百万円(前年同期比9.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は31百万円(前年同期比10.6%減)となりました。

セグメントの概況は次の通りであります。

#### ① PIM(パウダー・インジェクション・モールディング)事業

##### 1) 高機能部品

新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)における高付加価値戦略商品として、前期に受注済の高機能部品11品番に加え、当第1四半期連結累計期間において、ロボット関連部品2件、直動型ベアリング1件を含む計8件を新規に受注致しました。また、材料販売においては納入先12社から15社に拡大致しました。

##### 2) 自動車部品

次世代ガソリンターボとして普及が見込まれるガソリンVG(Variable Geometry)ターボに要求されるPIM工法では世界初となる1000度近辺に耐えうるノズルベーンの開発に成功(転位強化技術確立:高温時の粒界すべりを抑制)した事で大手ターボメーカー並びにエンジンメーカーより、具体的な引き合いを多数頂いております。現在、700度近辺で使用されるディーゼルVGターボは耐熱ステンレス合金(Fe基)を使用しておりますが、Ni基超合金で成功した転位強化技術を応用し、本材料においても900度を超える高温で使用可能なノズルベーンの開発にもメドが立ちつつあります。

また、大手ターボメーカーと現行ディーゼルトターボエンジンのノズルベーンを含む数種類の部品の量産化に向けた覚書(1年後の量産を前提とした基本合意)を締結致しました。今後、随時、試作、承認、量産準備に移行する予定です。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は27百万円(前年同期比67.7%増)、営業利益6百万円(前年同期比61.2%増)となりました。

② 衛生検査器材事業

新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)において、コアビジネスであり安定継続事業として位置付ける本事業においてはここ数年、安定した売上高を堅持しております。2019年3月に「大口顧客獲得」「訪問販売」を目的とした本事業では初となる営業所を東京に開設し、従来の本社テレマーケティング営業に加えフェイスtoフェイスの営業による拡販活動を本格的にスタートさせました。

原価面においては、シャーレ製造部門の原価低減活動が奏功し、前期に実行した在庫の圧縮が完了したことから、売上総利益は195百万円(前年同期比5.0%増、利益率49.9%)に回復しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は390百万円(前年同期比0.7%減)、営業利益22百万円(前年同期比1.7%増)となりました。

③ 半導体資材事業

当第1四半期連結累計期間においても売上は大きく伸張しており、前年同期比で出荷数量21.8%・売上高17.6%増となりました。月産販売数量は800万mに到達しつつあり、2016年3月期の平均販売数量の2倍以上となりました。新5ヶ年計画(NP5Y-Challenge50)達成の上で本事業を安定成長事業として位置付け、経営資源を集中する中で2019年7月より、更なる増産体制を確立すべく、韓国生産拠点を創業以来、初めて完全2シフト体制に変更し、対応して参ります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は340百万円(前年同期比17.6%増)、営業利益32百万円(前年同期比1.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ1.2%減の5,297百万円となりました。

これは、「受取手形及び売掛金」が38百万円増加する一方、「建設仮勘定」が102百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ1.0%減の3,660百万円となりました。

これは、「支払手形及び買掛金」が30百万円、「リース債務」が66百万円増加する一方、「短期借入金」が5百万円、「1年内返済予定の長期借入金」が43百万円、「長期借入金」が146百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ1.7%減の1,637百万円となりました。

これは、「利益剰余金」が12百万円、「為替換算調整勘定」が17百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日発表の通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	452,583	366,361
受取手形及び売掛金	452,291	490,823
商品及び製品	161,844	164,171
仕掛品	21,631	30,751
原材料及び貯蔵品	210,857	222,908
その他	48,614	44,689
貸倒引当金	△1,587	△1,597
流動資産合計	1,346,234	1,318,106
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,029,969	1,014,848
機械装置及び運搬具（純額）	785,671	789,097
土地	1,531,044	1,531,044
建設仮勘定	306,942	203,956
その他	153,687	239,068
有形固定資産合計	3,807,316	3,778,016
無形固定資産		
その他	83,365	76,584
無形固定資産合計	83,365	76,584
投資その他の資産		
投資有価証券	2,720	3,388
繰延税金資産	92,884	91,592
その他	30,744	30,432
貸倒引当金	△791	△823
投資その他の資産合計	125,558	124,589
固定資産合計	4,016,240	3,979,190
資産合計	5,362,475	5,297,296

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	385,014	415,689
短期借入金	170,000	165,000
1年内返済予定の長期借入金	743,922	700,030
リース債務	9,655	7,358
未払金	64,940	72,818
未払法人税等	18,498	15,789
賞与引当金	52,168	25,920
設備関係支払手形	10,278	32,386
その他	59,460	119,713
流動負債合計	1,513,937	1,554,707
固定負債		
長期借入金	2,170,222	2,023,785
リース債務	-	68,635
繰延税金負債	89	81
退職給付に係る負債	10,077	10,689
その他	2,226	2,162
固定負債合計	2,182,615	2,105,354
負債合計	3,696,553	3,660,061
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	797,701	797,701
資本剰余金	717,701	717,701
利益剰余金	162,049	149,404
自己株式	△7,722	△7,748
株主資本合計	1,669,730	1,657,059
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	969	1,433
為替換算調整勘定	△45,921	△62,938
その他の包括利益累計額合計	△44,952	△61,504
新株予約権	41,144	41,680
純資産合計	1,665,922	1,637,235
負債純資産合計	5,362,475	5,297,296

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	699,596	759,204
売上原価	374,422	387,447
売上総利益	325,173	371,756
販売費及び一般管理費	268,010	311,439
営業利益	57,163	60,317
営業外収益		
受取利息	14	42
為替差益	670	-
受取賃貸料	79	79
助成金収入	5	600
その他	214	254
営業外収益合計	984	976
営業外費用		
支払利息	4,716	4,490
減価償却費	290	4,717
為替差損	-	5,557
その他	2,014	114
営業外費用合計	7,021	14,879
経常利益	51,126	46,414
特別利益		
固定資産売却益	-	99
特別利益合計	-	99
特別損失		
固定資産除却損	-	1,055
特別損失合計	-	1,055
税金等調整前四半期純利益	51,126	45,459
法人税等	16,290	14,300
四半期純利益	34,835	31,158
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	34,835	31,158

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	34,835	31,158
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	119	464
為替換算調整勘定	△4,429	△17,016
その他の包括利益合計	△4,310	△16,552
四半期包括利益	30,525	14,606
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	30,525	14,606
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。